

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月9日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 第一興商

コード番号 7458 URL <http://www.dkkaoko.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長

(氏名) 保志 忠彦

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部経理部長

(氏名) 小林 成樹

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日

TEL 03-3280-2151

平成21年12月7日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	62,464	0.9	8,502	8.1	9,054	9.1	5,683	12.4
21年3月期第2四半期	61,902	—	7,863	—	8,300	—	5,058	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	84.36	—
21年3月期第2四半期	73.33	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	124,985	81,249	64.4	1,207.63
21年3月期	124,295	79,331	63.3	1,165.60

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 80,510百万円 21年3月期 78,640百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	45.00	45.00
22年3月期	—	20.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 有

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	125,000	△0.1	16,800	0.8	17,600	0.8	10,300	△5.4	154.50

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は、7ページ「定性的情報・財務諸表等」4その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	67,470,596株	21年3月期	69,600,596株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	802,586株	21年3月期	2,132,586株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第2四半期	67,372,711株	21年3月期第2四半期	68,980,104株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 平成21年5月15日に公表いたしました連結業績予想のうち、通期においては本資料において修正しております。
- 本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報により作成しており実際の業績は今後起こりうる様々な要因により、異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、6ページ「定性的情報・財務諸表等」3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日、以下「当期間」という。）におけるわが国経済は、昨年秋から続いた景気後退のなか、アジア圏を中心とする海外経済の改善の兆しを背景に輸出や生産の持ち直しが見られるものの、雇用情勢の悪化や設備投資の減退は依然として解消されず、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

当カラオケ業界におきましては、個人消費が低迷するなか、クラブ・スナックなどのナイト市場は依然厳しい状況が続いており、カラオケボックスなどのデイ市場におきましても集客は低調に推移しております。

この様ななか、当社グループにおきましては、通信カラオケ「DAM」シリーズの販売及び賃貸に注力したことから、「DAM」稼働台数は着実に増加しております。また、6月下旬に発売した本人映像やライブ映像などのコンテンツとスペックを強化したフラッグシップ商品「プレミアムDAM（DAM-XG1000II）」の出荷も堅調に推移いたしました。カラオケ・飲食店舗事業におきましては、消費低迷や新型インフルエンザの流行の兆しなど逆風の環境のなか、従前から行なってきたスクラップ・アンド・ビルドとコストコントロールの継続により着実に利益を確保し、音楽ソフト事業では、7月に発売した「Perfume（パフューム）」のアルバムや「スタジオジブリ」のDVDが収益に貢献いたしました。

以上の結果、当期間の売上高は業務用カラオケ事業が横ばいと健闘し、カラオケ・飲食店舗事業と音楽ソフト事業が僅かに増収となったことから62,464百万円（前年同期比0.9%増）となりました。利益面におきましては売上原価や販管費など営業費用の圧縮に努め営業利益は8,502百万円（前年同期比8.1%増）、経常利益は9,054百万円（同9.1%増）、四半期純利益は5,683百万円（同12.4%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績概況は次のとおりであります。

（業務用カラオケ事業）

当事業におきましては、長期安定的な収益獲得のため継続してストック型ビジネスの拡大に注力しており、その収益源である機器賃貸件数や「DAM」稼働台数の着実な増加を図るとともに、6月下旬に発売した「プレミアムDAM（DAM-XG1000II）」の出荷は、大手カラオケ事業者などを中心に堅調に推移いたしました。また「DAM」ブランドの浸透と向上を図るため新CMを制作し、オーディション番組の提供を継続するとともに、音楽専門チャンネルとタイアップしたプロモーション企画に取り組むなど、エンドユーザーに向けたプロモーション活動を行い、さらなる「DAM」稼働台数の増加に努めてまいりました。

以上の結果、当期間の業績は、情報提供料収入は順調に増加したものの景気後退による投資意欲の減退から商品販売が軟調に推移し売上高は前年同期比0.4%減少いたしました。売上原価の改善と販管費の低減から営業利益は前年同期比12.0%の増加となりました。

（百万円）

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	30,578	30,452	△125	△0.4%
営業利益	5,242	5,873	630	12.0%

主要数値

	単位	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
DAM稼働台数	(千台)	217	220	3	1.4%
(うちブロードバンド稼働台数)	(千台)	(95)	(101)	(6)	6.4%
機器賃貸契約件数・9月末	(千件)	57	60	3	4.7%
DAM出荷台数・9月末	(千台)	12	13	1	1.5%

(カラオケ・飲食店舗事業)

当事業におきましては、カラオケルーム「ビッグエコー」と飲食店舗の多店舗・複合型店舗展開を進め、今後の核となる店舗として、ビッグエコーと飲食4ブランドを併設する大宮東口店や地上8階建てビル棟に飲食3ブランドを展開する品川港南口店をオープンいたしました。飲食事業の新ブランドとして「夢や京恋しずく」や「VENUS CAFE(ヴィーナス カフェ)」を投入するなど、新業態開発にも積極的に取り組んでまいりました。また、新型インフルエンザへの対応など安全・安心に向けた取り組みを徹底し、店舗ブランドの維持・向上に努めております。

以上の結果、当期間の業績は消費低迷の影響から既存店は軟調に推移したものの、飲食店舗の新店効果から売上高は前年同期比1.5%の増加となり、売上原価に含まれる店舗賃料などの固定費のほか間接コストの圧縮にも努めたことから営業利益は前年同期比5.7%の増加となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	19,518	19,815	297	1.5%
営業利益	2,384	2,520	135	5.7%

主要数値

	単位	前第2 四半期末	前期末	当第2 四半期末	当期増減	当期増減率
ビッグエコー店舗数・9月末	店	221	233	244	11	4.7%
(うち複合店舗数)	店	(26)	(29)	(30)	(1)	3.4%
〃 ルーム数	ルーム	6,461	6,678	6,876	198	3.0%
飲食店舗数・9月末	店	84	88	96	8	9.1%
〃 座席数	席	10,104	10,956	12,212	1,256	11.5%

(注) 上記数値には海外店舗を含んでおりません。

(音楽ソフト事業)

当事業におきましては、返品率の改善やコストコントロールによる経営の効率化に取り組むなか、日本クラウンの「北島三郎」や「九州男(くすお)」、徳間ジャパンコミュニケーションズの「Perfume(パフューム)」や「リュ・シウォン」、「水森かおり」など根強いファンを持つアーティストの作品が堅実に収益貢献しております。また7月発売の「Perfume」のアルバム「△(トライアングル)」や「スタジオジブリ」のDVD「崖の上のポニョ」が好調に推移し、収益に貢献いたしました。

以上の結果、当期間の業績は売上高が前年同期比6.7%の増加となり、営業利益についてはスタジオジブリ系作品の販売比率が上昇したことによる原価率の上昇と販売費の増加により前年同期比5.5%の減少となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	6,499	6,935	436	6.7%
営業利益	1,011	955	△55	△5.5%

当期間に貢献した主なアーティスト

会社名	アーティスト名
日本クラウン(株)	北島三郎 九州男 キム・ヨンジャ 鳥羽一郎ほか
(株)徳間ジャパンコミュニケーションズ	Perfume リュ・シウォン 水森かおり スタジオジブリの歌ほか

(その他の事業)

当事業におきましては、携帯電話向けサービスと衛星放送事業の加入者数は伸び悩んでおりますが、子会社が営むホテル事業において3軒目となる「うたゆの宿 箱根」を7月初旬に開業するなど新たな事業の拡大にも積極的に取り組んでまいりました。

以上の結果、当期間の業績は売上高が前年同期比0.9%の減少となり、携帯電話向けサービスの販売費が増加した影響から営業利益は前年同期比6.9%の減少となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	5,306	5,260	△46	△0.9%
営業利益	815	759	△56	△6.9%

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ690百万円増加し、124,985百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では、現金及び預金が863百万円減少し、流動資産のその他に含まれる、前払費用が1,090百万円、繰延税金資産が586百万円それぞれ増加しております。

固定資産では、カラオケルーム及び飲食店舗設備が546百万円、投資その他の資産のその他に含まれる、投資有価証券が263百万円増加しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ1,228百万円減少し、43,736百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動負債では、短期借入金が2,830百万円、流動負債のその他に含まれる、未払金が721百万円それぞれ減少し、未払法人税等が2,509百万円増加しております。

固定負債では、長期借入金が814百万円減少しております。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ1,918百万円増加し、81,249百万円となりました。

これは主に、四半期純利益による利益剰余金の増加5,683百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少3,036百万円によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末における現金及び現金同等物（以下資金という。）は、前連結会計年度末に比べ812百万円減少し、28,771百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益が8,843百万円、減価償却実施額が6,548百万円及び法人税等の支払額が1,445百万円等により、前年同期に比べ1,961百万円増加し、14,198百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出が5,133百万円及び無形固定資産の取得による支出が1,819百万円等により、前年同期に比べ1,270百万円減少し、7,360百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、長期借入金の返済による支出が6,158百万円、配当金の支払額が3,026百万円、及び長期借入による収入が2,560百万円等により、前年同期に比べ1,878百万円増加し、7,661百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

今後の国内経済は、企業業績の改善を背景に景気の持ち直しが期待されるものの、雇用情勢の一層の悪化や設備投資の減退など引き続き厳しい状況で推移するものと思われま

す。その様ななか、通期の業績見通しにつきましては、個人消費の低迷に加え新型インフルエンザの流行拡大が懸念されるなど不透明な要因もことから、第3・第4四半期の売上高を当初予想値から僅かに減額し通期では1,250億円といたしました。

また、上記の不透明要因など経営環境の厳しさを踏まえ引き続き営業費用の圧縮に努め、各利益につきましては第3・第4四半期の当初予想値をほぼ据え置き、通期の営業利益を168億円、経常利益を176億円並びに当期純利益を103億円といたしました。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 簡便な会計処理

法人税等の算定方法

法人税等の算定方法は、課税所得の計算における加減算項目及び税額計算における税額控除項目を、重要なものに限定する方法によっております。

2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,139	30,003
受取手形及び売掛金	9,033	8,925
たな卸資産	4,523	4,778
その他	6,391	5,062
貸倒引当金	△431	△446
流動資産合計	48,657	48,321
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器（純額）	7,452	7,537
カラオケルーム及び飲食店舗設備（純額）	14,117	13,571
土地	18,349	18,463
その他（純額）	7,947	8,104
有形固定資産合計	47,867	47,677
無形固定資産	7,114	7,026
投資その他の資産		
敷金及び保証金	13,280	13,332
その他	9,000	8,916
貸倒引当金	△934	△979
投資その他の資産合計	21,346	21,269
固定資産合計	76,328	75,973
資産合計	124,985	124,295
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,603	4,214
短期借入金	8,188	11,018
未払法人税等	3,907	1,397
賞与引当金	1,561	1,167
その他	9,513	10,190
流動負債合計	27,775	27,988
固定負債		
長期借入金	9,364	10,178
退職給付引当金	2,930	2,891
役員退職慰労引当金	1,905	2,105
負ののれん	308	335
その他	1,452	1,464
固定負債合計	15,960	16,975
負債合計	43,736	44,964

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	18,269	20,362
利益剰余金	51,855	49,207
自己株式	△987	△2,094
株主資本合計	81,488	79,825
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△115	△317
土地再評価差額金	△777	△777
為替換算調整勘定	△84	△90
評価・換算差額等合計	△977	△1,184
少数株主持分	739	690
純資産合計	81,249	79,331
負債純資産合計	124,985	124,295

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	61,902	62,464
売上原価	35,619	36,057
売上総利益	26,283	26,406
販売費及び一般管理費	18,419	17,904
営業利益	7,863	8,502
営業外収益		
受取利息	127	92
受取配当金	38	37
受取協賛金	180	234
負ののれん償却額	27	27
その他	427	453
営業外収益合計	802	845
営業外費用		
支払利息	176	139
為替差損	100	58
その他	89	95
営業外費用合計	366	293
経常利益	8,300	9,054
特別利益		
固定資産売却益	16	9
投資有価証券売却益	7	0
貸倒引当金戻入額	128	22
賃貸借解約補償金	119	248
関連事業整理損戻入益	148	—
その他	—	11
特別利益合計	420	291
特別損失		
固定資産処分損	216	202
減損損失	—	300
投資有価証券売却損	6	—
投資有価証券評価損	305	—
特別損失合計	528	503
税金等調整前四半期純利益	8,192	8,843
法人税、住民税及び事業税	3,087	3,865
法人税等調整額	△45	△757
法人税等合計	3,041	3,107
少数株主利益	92	51
四半期純利益	5,058	5,683

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,192	8,843
減価償却費	6,583	6,548
減損損失	—	300
負ののれん償却額	△27	△27
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△213	△60
賞与引当金の増減額 (△は減少)	405	394
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	79	△200
受取利息及び受取配当金	△166	△130
支払利息	176	139
固定資産処分損益 (△は益)	199	193
投資有価証券評価損益 (△は益)	305	—
売上債権の増減額 (△は増加)	94	△95
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△584	295
カラオケ貸貸機器の売上原価振替	362	217
仕入債務の増減額 (△は減少)	△20	386
その他	506	△1,155
小計	15,891	15,649
利息及び配当金の受取額	165	131
利息の支払額	△176	△137
法人税等の支払額	△3,644	△1,445
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,236	14,198
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期性預金の預入による支出	△211	△59
定期性預金の払戻による収入	162	110
有形固定資産の取得による支出	△5,782	△5,133
有形固定資産の売却による収入	113	22
無形固定資産の取得による支出	△1,896	△1,819
映像使用許諾権の取得による支出	△593	△534
投資有価証券の売却による収入	136	0
貸付けによる支出	△165	△93
貸付金の回収による収入	234	212
敷金及び保証金の差入による支出	△993	△311
敷金及び保証金の回収による収入	403	234
その他	△35	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,630	△7,360
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	394	△45
長期借入れによる収入	1,840	2,560
長期借入金の返済による支出	△5,311	△6,158
配当金の支払額	△1,730	△3,026
自己株式の取得による支出	△972	△984
その他	△4	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,783	△7,661
現金及び現金同等物に係る換算差額	△134	11
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,312	△812
現金及び現金同等物の期首残高	28,300	29,584
現金及び現金同等物の四半期末残高	25,988	28,771

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

	業務用カラ オケ事業 (百万円)	カラオケ・飲 食店舗事業 (百万円)	音楽ソフト 事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	30,578	19,518	6,499	5,306	61,902	—	61,902
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	129	—	85	416	632	(632)	—
計	30,707	19,518	6,585	5,723	62,534	(632)	61,902
営業利益	5,242	2,384	1,011	815	9,453	(1,589)	7,863

当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

	業務用カラ オケ事業 (百万円)	カラオケ・飲 食店舗事業 (百万円)	音楽ソフト 事業 (百万円)	その他の 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	30,452	19,815	6,935	5,260	62,464	—	62,464
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	148	—	96	429	674	(674)	—
計	30,601	19,815	7,031	5,689	63,138	(674)	62,464
営業利益	5,873	2,520	955	759	10,108	(1,605)	8,502

(会計処理の方法の変更)

前第2四半期連結累計期間

(たな卸資産)

音楽ソフト事業において、前連結会計年度まで営業外費用に計上しておりました、たな卸資産評価損は、第1四半期連結会計期間より売上原価として処理しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間における音楽ソフト事業の営業利益は246百万円減少しております。

(販売促進費の計上区分)

業務用カラオケ事業における、販売促進効果を目的とする販売促進費を営業費用として計上しておりますが、第1四半期連結会計期間より、その一部について売上高の控除項目として処理しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間における業務用カラオケ事業の売上高は354百万円減少しておりますが、営業利益に対する影響はありません。

当第2四半期連結累計期間

該当事項はありません。

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）及び

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）及び

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

該当事項はありません。